



茶の香だより

第23号

令和3年3月1日発行

発行元：武蔵村山市立第五中学校

学校運営協議会

編集：学習部



地域と共に歩む第五中学校を目指して

武蔵村山市立第五中学校 校長 榎戸 千代子

学校運営協議会委員の皆様には、保護者や地域の代表として本校のコミュニティ・スクールに関わっていただき、学校だけではできない様々な教育活動を支えていただいております。

今年度はコロナ禍で、例年どおりの活動はできませんでした。しかし、学習部では3学年進路模擬面接で委員の皆様面接官をお願いし、進路のサポートをしていただきました。生活部では、防犯パトロールや校庭の芝刈りが数回しか実施できませんでしたが、委員やPTA、地域の皆様に御協力をいただきました。地域連携部では、五中フェスティバルや2年職場体験で人材や体験場所等のサポートをお願いしています。こちらも今年度は実施できなかったため、2学年では職場体験の代わりに新たに「プロから学ぶ会」を企画しました。ここで講師の先生を御紹介いただいたり、当日の講師を委員の皆様が引き受けてくださったりして、進路学習を進めることができました。改めて学校運営協議会委員の皆様の御理解、御協力に感謝申し上げます。来年度も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



コロナ禍の中で

第五中学校学校運営協議会 会長 荒幡 善政

今年度、新会長に就任し、コロナ対応に追われた一年がもうすぐ終わろうとしています。

学校の行事も、変更、中止、変更、中止と目まぐるしく変わっていく中で、生徒たちの制限の多い中、少しでも良い学生生活を送れるよう、学校と協議し、PTAと協力しながら活動してまいりました。

例年通りとは中々いきませんが、学習部では模擬面接を、生活部では防犯パトロールなどの活動を行うことができました。

中でも、地域連携部では、2年生の職場体験ができなかったため、職場体験に変わるものとしていろいろ知恵を絞り「プロに学ぶ」ということで、地域の方、何名かに講師となってもらい、生徒の前で自分の仕事のこと、仕事に対する思いや心構えなどを話してもらいました。

とても好評だったようで、ぜひ次回も、と話が来ています。

コロナ禍で何もかも中止ではなく、皆で知恵を出し、少しでも、一歩でも進めていけたらと思います。

今年度はここで終わりますが、もう一年、学校運営協議会は同じメンバーで活動していきます。引き続き御協力をお願いいたします。

また、地域の皆様におかれましても、制約の多い中ではあると思いますが、御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍に負けない！地域の絆

生活部会長 加園 一茂

生活部の活動は主に五中校区防犯パトロール、校庭芝生の管理、そして校内美化作業となっております。コロナ禍の影響で五中校区防犯パトロールはこの一年で数回しかできませんでした。防犯パトロールは地域の安心安全の為に活動ですが、それだけではありません。参加して下さる校区内の各団体・先生方との情報交換の場であり、地域の繋がり(地域力)を強くする意味もあると思っております。コロナの怖いところは、健康を害することだけではなく、人と人や地域の繋がりさえも弱くしてしまうことではないでしょうか。コロナ禍が収まり通常通り活動出来るその日まで、しっかり準備はしておきたいと思っております。

コロナ禍の1年を振り返る

学習部会長 高橋 圭子

コロナ禍の今年度。学習部の主な活動は進路模擬面接でした。学校及び学校運営協議会の委員と、保護司会の皆様の御協力により、無事に実施することが出来ました。緊張の面持ちで臨む生徒の皆さんの姿を前に、面接指導の側の私たちも襟を正す思いで、真剣に取り組ませていただきました。このような形で地域の大人が、学校に関わらせていただくことは、これからの未来を担う生徒の皆さんにとって、経験の蓄積の一助になればと思えました。大変にありがとうございました。また、茶の香だよりも今年度の締めくくりの号として今回発行に至りました。来年度も、今、何が出来るのかを学習部で模索しながら、前進をしていきたいと思っております。(※進路模擬面接画像)



コロナ禍の中でも

生活連携部会長 堀上 みち子

コロナ禍のこの一年間は多くの行事が中止になる状況でした。そのような中でも、感染対策を取っての運動会や三年生の進路模擬面接、二年生の進路学習「プロから学ぶ会」などを行えたことはとても良かったと思います。生徒の皆さんがこの制約の多い中でも、これらの貴重な機会を大切に、熱心に取り組んでいる姿を見てこちらが励まされる思いでした。面接官や講師を引き受けてくださった、地域のその道のプロの方々へ改めて感謝致します。素晴らしい授業をありがとうございました。そしてそれに熱心に答えてくださった生徒の皆さんにも、ありがとうございました。伝えたいです。(※画像はプロから学ぶ会打ち合わせの様子)

◆武蔵村山の昔話◆「コロナウィルス」

この名前が身近になって1年が経ち、皆さんの生活も様々に変化がありました。さて、昔むかしのお話です。

医療技術の発達していなかった時代にも「疫病」と呼ばれた流行り病がありました。人々はどのように立ち向かっていったのでしょうか。石碑を作り祀り、ひたすら手を合わせて祈ったり、人間の形に作った紙を人に見立てお焚き上げをしたりしたという言い伝えもありますが、武蔵村山史調査報告書の中には以下の様な記述があります。

『人々は流行り病から身を守る為に神仏を信じたそうです。流行り病が猛威を振るう場合にはその病名を冠した神様を祀りお祈りました。その一つが「疱瘡神」です。現在ではその名残として三ツ木の十二所神社境内に疱瘡神社が祀られています。』

又、以前にお話した武蔵村山の陰陽師と呼ばれる「指田撰津正藤詮」の記録『指田日記』にも当時の生活の様子がいくつか書き記されています。流行り病、疫病など人々と病との付き合い方や人々の病気に對しての工夫等、図書館でゆっくり読んでみるのも良いのかもしれない。

いつの時代も皆の知恵でルールを作り、協力して乗り越えて行く強い心を私たち人間は持っています。この力は昔から変わらない大事な物ですね。(文責：安部 朋子)

■■■■■三年生の保護者の皆様へお願いです。■■■■■

今年度は、コロナ禍により、五中フェスの中止により標準服リサイクル事業の出店が叶いませんでした。しかしながら、今後も是非継続したい事業ですので、今春ご卒業される三年生の標準服を御寄付いただけますと、非常に助かります。御理解御協力のほどよろしくお願いいたします。標準服は学校に御持参ください。何か御不明な場合は、こちらのメールアドレスまでにお問い合わせをお願いします。team5mcs@gmail.com 高橋圭子まで